



第七回 思かげはどこかに。

styling | Shinya Endo photo | Kenji Nakata story | Senichiro Ozawa

「おじいちゃん、ありがとう。」

あの日、故郷をあとにしてから、どれだけの人とさよならをしただろうか。アキラは亡き祖父のことを思った。太い腕に厚い胸板をしていて、背も180センチを超えるアキラとさほど変わらない。いつも背筋が伸びていて、怒ったときは腹の底から出てきたようなずしりと重く赤黒く燃えているような力を帯びていた。大きな後ろ姿は、迫力があつた。だけど、アキラを見る目は優しくしてしまっていた。「達者でな。がんばってこい」。そうやって見送ってもらったのを覚えている。大学へ進学するために19歳で上京、ひとり暮らしをはじめた。アキラには不安などこれっぽっちもなく、漠然とした高揚感で誰と何を話しても声がうわすずってしまうほどだった。駅から15分ほど、金網のフェンスの向こうに、低層のアメリカンハウスが立ち並び、その家々に幾つものバームクーラーが影をつくっていた。この向こうはアメリカ。いや、正確

には日本ののだが、そこにはアミーで働くアメリカ人が祖国から遠く離れて暮らしている。中学生のときに、祖父や家族に見送られ、サンフランシスコへ短期留学して以来、アメリカンカルチャーに傾倒していったアキラにとって、その景色は憧憬のような、でもどこか違うような、不思議なものに映った。故郷から糸が切れた爪のよう

にひらひらとやってくる、ひとり暮らしにわくわくして、ふわふわもしている所在しない自分には、それをうまく説明する言葉がまだ見つからなかった。あの頃は、なんとなく目の前に開かれた新しい世界に憧れていただけで、どうしたいとか、どうやって進んでいくのかなど、わかっていたしなかった。なんとなくこのままいけば、再びアメリカまで行けるんじゃないかって。深く考えることもしないまま、時間だけはあつというまに過ぎていった。そのあいだに、祖父と2人の祖母と我が子のように可愛がってくれた叔父と愛猫と愛犬と、永遠のさ

よならをした。アキラの戯れ言のような夢を一緒に見てくれていたり聞いてくれた大切な人たちだった。

「どうだ、今はどこにいる？ 思い出したものに近づけているか。そんなことはいい。それよりも、自分の未来に一番期待していた頃の自分自身はまだそこに一緒にいるのか？」目を閉じると、大きな背中の中が振り返って、そうやって話しかけてくるようだ。ひとり暮らしをはじめた鉄筋コンクリートのワンルームマンション。そこでたくさん

か。いや、この街にいれさえすればかの地へと誰か（何か）が連れて行ってくれるとも思っていたのか。こんなに、なんとなく生きてきたやつなんて、なかなかいないんじゃないだろうか。

フェンスの向こうに見えていたアメリカ。あの部屋から何度も引越して、今となってはあの頃の自分のこともおぼろげだ。ふわっとしたまま、何も変わっていないかもしれないのに、その原風景すらもアキラは記憶の縁から取りこぼしてしまっているのだ。しかし、彼は幸せだろうと思う。なぜなら、その鉄筋コンクリートのワンルームマンションの最初の部屋を知る、新しい家だ。そして今となっては古い友だちととも仲がよいからだ。ここまで来たら、その関係はずっと続くに違いない。そこには何かがある。アキラにはそれがどういふことか、ようやくわかった。あえて口にはしない。誰か信じてくれて、そして自分自身がよいよ信じはじめるとき。人生というものは猛烈に動き出す。

クロームペンダントライト ¥56,800、ワインテーンダクトライト ¥26,800、ビールサイン ¥30,000、ジューム77 ラウンジチェア ¥26,800、コカコーラクロック ¥49,800 (すべてムーディーズ ☎03-3793-6223)、ブルックスベッド ¥62,000 (アクメファニチャー)、ワインテーンダクトライト ¥7,400、シューターランプ ¥22,000 (アクメファニチャー)、クワッド ¥27,000 (ストマックエイク)、マルチカバークッション ¥18,000 (アクメファニチャー)、ブリッツラグ ¥22,000 (アクメファニチャー)、サリアッシュトレイ ¥4,000、ホースプランケット ¥28,000 (アクメファニチャー)、アーウィンハイスツール ¥33,000 (アクメファニチャー)、スーパー56キャンドル ¥3,900 (すべてアクメファニチャー)、渋谷店 ☎03-5728-5355)、ノマディックベッド ¥20,000、グロサリーボックス ¥800、ブルックスクッション ¥3,500、ワックレムホワイトワイドスモール ¥3,800、ナチュラルデスモール ¥2,800、ワインテーンダクトライト ¥4,500 (すべてアクメファニチャー ☎03-3452-6766)、リバーシブルプランケット ¥11,840、ブルブルームマガジンラック ¥16,800、目覚まし時計参考商品、ワインテーンダクトライト ¥38,800 (すべてアクメファニチャー ☎03-3460-2530)、その他スタイリスト私物

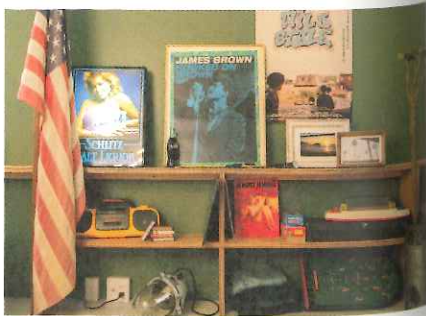
REISM



「とある部屋」を用意してくれたREISM (リズム) は、都心で働く20~30代の「スタイルのある」シングル向けリノベーションルームを提案するライフスタイルブランド。あたらしい暮らしに出会える。www.re-ism.jp



「forRest」と名づけられたこの部屋は、REISMのリノベーション賃貸シリーズのひとつ。白塗りの床、木立のように並ぶ古材、ハンモックやプラントハンガーも吊るせる作り。名前通り、森の中にいるように癒される空間だ。



まず国旗にはじまり、CDや映画の付録ポスター、シュリッツのビールサイン、ラジカセ、映画のパンフレット、ジーンズ。意識したわけではないのに、好きなものはすべてアメリカのものだった。遠くて近い、僕のアメリカ。



60年代のワインテーンダクトライトを、実用的に作り直されたベッド。ヒノキのスツールに、ラバーウッドのランプ。部屋に置く大きな家具はだいたい木製のものを選んでしま。それもアメリカ映画の影響かもしれない。



部屋にアポなしでやってくる友人たちのために使っていたリサイクルファブリックのマットレスとクッションは、量めて持ち手もあつたので収納しやすい。みんなそれぞれ自分の居場所ができたのか、最近は出番が減ってきた。



思い入れはあるが、ちょっと自分にはおしゃれすぎるんじゃないかって、見るたびに少し気恥ずかしくなっていたペンダントランプ。歳を取ることによって部屋に馴染んで来て、何度引越してもいっしょに良い場所に下げている。



八角形のワインテーンダクトライトで夜通しランプをして、酸っぱいビネガーのポテトチップスを食べた。みんなバドワイザーの缶ビールをそのへんの床に置くもんだから、しょっちゅうこぼしてラグがビール臭くなる。